

Timbre-poste の timbre は接辞か？： 複合語構成要素のメンタルレキシコンでの取り扱いについて

古賀 健太郎

(東京外国語大学 大学院博士前期課程)

フランス語における、名詞同士によって形成される複合語 (N1 + N2) の中には、timbre+N2 (timbre-poste, timbre-quittance, timbre-prime etc.)のように、N2の位置にさまざまな名詞を置くことを許容するN1、というものがある。これらがさまざまな名詞に先立つという点から見ると、このN1に接頭辞との共通点を見出すことができそうである。ところでもしこうしたN1を接辞とみなした場合、我々は名詞としての timbre、そして接辞としての timbre-を別々にメンタルレキシコンの中に持つことになるだろうが、それは妥当な見方だろうか？

本発表ではこの点について、つまりN1 + N2複合語の構成要素には、接辞と同じ資格でメンタルレキシコンに登録されているものがあるといえるかどうかという点について、接辞が持つ特性や機能と比較しながら論じ、timbre-posteのようなN1 + N2形成のプロセスと、その構成要素のメンタルレキシコンへの登録のあり方を考察する。そしてこうしたN1 + N2形成に際しては、モデル化と類推という2つの作用の関与が重要であることを明らかにする。